

平成26年度 事業報告書

西神南あんしんすこやかセンター

1. 《法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

- ①介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う機関であることを認識し、公正中立な事業運営を行う。また、地域の特性や実情を常に把握し何事に対しても柔軟に対応をしていく。
- ②職員相互に常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく。
- ③圏域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・地域と密に連携をとり、地域包括ケアの充実を図る。

3. 《実績》

○介護予防ケアプラン数

請求合計 3535 件 前年比 38 件減

(直営担当数 : 2066 件 前年比 150 件増 委託数 1469 件 前年比 188 件減)

月平均は 294 件 (前年 297 件) で昨年と比べ 3 件減少している。

新規ケース数は年間 86 件。月平均 7.1 件。

ケアプランの総数は若干減少がみられたが、これは介護保険の利用者の一時的な高止まりと考えられる。

今年度は委託ケースを減らし、直接担当することを心がけた為、委託数は減少。直営プラン数が増加している。

(要介護度・男女別介護報酬請求状況)

	要支援1		要支援2		合計	委託数
	男性	女性	男性	女性		
4月	37	109	39	116	301	137
5月	38	114	35	114	301	134
6月	41	117	34	110	303	131
7月	38	115	32	115	300	126
8月	40	116	32	112	301	126
9月	39	113	30	109	291	123
10月	39	113	31	110	293	123
11月	34	111	32	106	283	116
12月	37	108	39	109	293	120
1月	36	113	34	105	288	112
2月	39	113	39	99	290	113
3月	39	115	38	99	291	108

平均年齢 84歳4カ月

最高年齢 98歳7カ月

最少年齢 46歳4カ月

4. 《目標に対しての報告》

①相談対応の充実

A) 介護者支援の充実

介護リフレッシュ教室を年間6回（2ヶ月に1回）西神南センタービルにて開催。

在宅で介護をされている方に対して情報交換の場の提供だけでなく、時節に応じた行事やレクリエーション等も行い介護者同士の輪を広げていく。

⇒在宅介護をされている方を対象に、年間6回（偶数月）開催。参加者同士が、ご自身の介護体験や悩みを話せる自助グループとして開催。

（内容）

4月16日：移動介助について（講師：介護ショップひまわり 理学療法士 正木健一氏）

6月24日：認知症について（講師：デイサービスあさんて 管理者 加藤長年氏）

8月20日：訪問入浴のススメ（講師：セントケアホールディングス 宮野弘之氏）

10月29日：笑いヨガ（講師：水野寿子氏）

12月24日：クリスマス会（クリスマスソング演奏：（株）セラピット 大西弘剛氏）

2月18日：介護体験談（講師：認知症家族の会 代表 川西美保氏 世話人 酒井邦夫氏）

B) 権利擁護業務の充実

◆成年後見制度の啓発

・地域での行事の場において身近な事例を寸劇等で分かりやすく説明し、地域の方々に対して制度の理解を深めていく。

・事業所連絡会において勉強会を開催しサービス事業所に対しても制度についての啓発を行っていく。

⇒26年度、住民や圏域事業所に対する勉強会の開催には至っていないが、神戸市からの権利擁護啓発チラシ等の配布を通じて住民への注意喚起は行った。しかし住民への十分な啓発や制度の理解には至っておらず、今年度6月に住民向けに寸劇を交えた権利擁護講座を開催予定。

◆高齢者虐待への対応

・成年後見制度同様、地域住民や事業所に対して高齢者虐待防止について地域での行事を活用し啓発をしていく。

・個別に相談があったケースについては行政機関と協働し、迅速に対応をしていく。

⇒地域行事や事業所連絡会等の際に勉強会を行う予定ではあったが、26年度中の実施はできなかった、今年度住民向けに6月に実施できる事になっており、現在準備中である。個別事例のケースとしては、虐待疑いを含め4件の案件があり。うち1件が現在対応継続中である。

C) 地域の関係者との連携

◆圏域の事業所やケアマネジャーとの連携

・2ヶ月に1度、ニュータウン地区にある他の2つの地域包括支援センターと共催にてケアマネジャー連絡会を開催。他サービスの事業所とも連絡会を開催し情報交換を行う。

⇒圏域内の居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所、民生委員、児童委員を招き、地域ネットワーク会議を地域ケア会議として民生委員児童委員協議会エリアごとに3か所で開催し、各機関の役割の共有を行った。

◆医療機関及び行政との連携

・圏域内の医療機関の情報をまとめ、情報をケアマネジャーに対して発信していく。

- ・区の医療連携ワーキングに参加し、地域の方々がスムーズに入退院ができるよう、区内の有床医療機関との連携を強化していく。
- ⇒区内9か所の地域包括支援センター、行政機関と協働して、医療と介護の連携を図るため区内17か所の有床病院、医師会、歯科医師会を交えて、認知症ライフサポート研修を開催した。研修には病院の他、区内居宅介護支援事業所や民生委員も参加して頂き、連携の強化を行った。引き続き、今後もスムーズな入退院や在宅医療との連携が行えるよう、交流会等の開催を行っていく。

◆地区診断の実施

- ・圏域内の福祉・保健ニーズを探り、情報をまとめていく
- ⇒25年度に、井吹台東町の地域診断を実施。26年度は圏域内の残りの地域、井吹台西町、北町、櫛谷に関しての地域診断を実施。現在、圏域内の地域福祉マップを作成中。

D) 相談窓口の周知徹底

◆地域住民への周知

- ・地域行事に積極的に参加をし、センターの知名度を上げる。
 - ・地域の情報誌等の媒体を活用し行事の実施を通じてセンターの知名度を上げる。
- ⇒圏域内で行われている給食会やふれあい喫茶などには可能な限り参加を行い、その場をお借りして介護予防や、介護保険制度についての説明を行い、相談窓口としてのアピールを行った。
- また、圏域内各自治会や民生委員児童委員協議会等の定例会に参加させていただき、センターの役割の説明などを行った。

◆職員の技術向上

- ・研修には適宜参加し、地域包括支援センターの職員としての資質の向上に努める。
 - ・2ヶ月に1度、併設居宅介護支援事業所と合同で事業所内勉強会を実施する。
- ⇒併設居宅介護支援事業所と合同で2か月に1回、事業所内勉強会を開催。

(内容)

- 4月4日：住宅改修助成制度について（講師：(株) あっとはんど 沖浦氏）
- 6月4日：要介護認定審査請求（講師：丹後ケアマネジャー）
- 8月6日：地域包括ケア病棟について（講師：伊川谷病院 医療相談員 中山氏）
- 10月1日：骨折について（講師：松山ケアマネジャー）
- 12月1日：ユマニチュードについて（講師：ケアハウス大慈 理学療法士 松井氏）
- 2月2日：訪問マッサージについて（講師：訪問マッサージディライト）

E) 認知症事業の啓発

◆認知症サポーターの養成

- ・地域包括支援センター圏域内で認知症サポーター養成講座を4回開催し、新たに認知症サポーターを100名増やす。
- ⇒26年度は圏域内自治会や、センタービルテナント業者などを対象に、4回の認知症サポーター養成講座を行い、計73名の新たな認知症サポーターの育成を行った。

◆認知症支援の充実

- ・地域において認知症講座を開催し、寸劇等により分かりやすく認知症についての理解を地域に深めていく。
 - ・圏域内の医療機関（17医療機関）に対し認知症に関するリーフレットを配布・説明し、認知症に対する理解を深めていく。
- ⇒圏域内の集会所にて、認知症についての寸劇や講話を行い、家族や地域で支えていくため

の理解や、介護保険についての説明を行った。

(開催日)

6月6日：ルゼフィール井吹台集会室（株）URコミュニティ兵庫住まいセンターと共催）

6月19日：市営西神井吹台住宅集会所（いぶき台自治会と共催）

9月3日：フローレ西神南集会室（井吹西民生委員児童委員協議会が主催）

②介護予防の充実

A) 介護予防ケアマネジメントの充実

◆サービス事業所との連携

- ・利用者にとって有用なケアプランが立案できるよう、介護保険サービス事業所との連絡会を開催し、サービス事業所との「顔の見える関係」を構築する。

⇒2か月に1回開催する3つの地域包括支援センター（西神南、西神中央、平野西神）合同で行っているケアマネジャー連絡会に加え、圏域内の介護サービス事業所、居宅介護支援事業所、民生委員児童委員協議会、西区社会福祉協議会を交えて開催した地域ケア会議（地域ネットワーク会議）で模擬事例の検討会などを行い、地域のネットワークとして顔の見える関係性作りに努めた。

◆ケアマネジメントスキルの向上

- ・行政主催の研修に参加をする事は勿論の事、各事業所にて行われている勉強会には可能な限り参加をし、介護予防ケアプランの質を高める。

⇒神戸市の主催するあんしんすこやかセンター職員研修への参加を行い、適切な予防プランのマネジメントを行えるように努めた。

3月4日～5日（各人半日受講）：神戸市介護予防支援業務従事者更新研修、全員受講。

B) 特定高齢者事業の充実

◆圏域の特定高齢者の把握

- ・生活機能評価事業において特定高齢者候補として該当された方に対して個別に電話・訪問を行い生活機能評価のフィードバックを確実に行う。
- ・介護認定において非該当となられた方に対して電話・訪問によりその方の現状を把握し、生活のフォローを行う。

⇒神戸市の実施する、「元気いきいきチェックリスト」にて特定高齢者として該当された方に対し、25年度は井吹台東町のみ訪問としたが、今年度は圏域内の全件を訪問対象とし、センター職員、見守り推進員で手分けして訪問活動を行った。

③地域見守りの強化

A) 訪問活動の継続

- ・あんしんすこやかルーム対象エリアの全戸訪問を行い、居住されている方の実態把握をする事により、必要な方には迅速に介護保険サービスの提供を行う。
- ・圏域の独居高齢者・老老世帯の高齢者に対して民生委員や地域の団体と情報を共有し適宜訪問をする事により生活実態の把握に努める。

⇒あんしんすこやかルームエリアの全戸訪問を、25年度に実施。26年度は6月～12月にかけて、65歳以上の独居、75歳以上の老老世帯に限って行った（約300戸）。不在宅は何度訪問しても会えないのが現状で、実態把握が不十分なままになっている方もいる。

B) 地域団体との連携

- ・小地域見守り連絡会を半年に1度（2月・7月）に開催し、民生委員やLSA等の関係者

と地域に居住されている方の課題を探り解決していく。

- ・ふれあいのまちづくり協議会や地域の団体が主催している行事に積極的に参加をする事により、各団体との顔の見える関係を構築していく。

⇒小地域見守り連絡会を年2回行う予定であったが、センターやルーム行事が多く、思う様に訪問活動が出来ない事もあり、12月に1回のみ開催となった。今年度は1年かけて全戸訪問(約1150戸)を行い、不在宅にもできるだけ会えるように努力する。

C) コミュニティ作りの充実

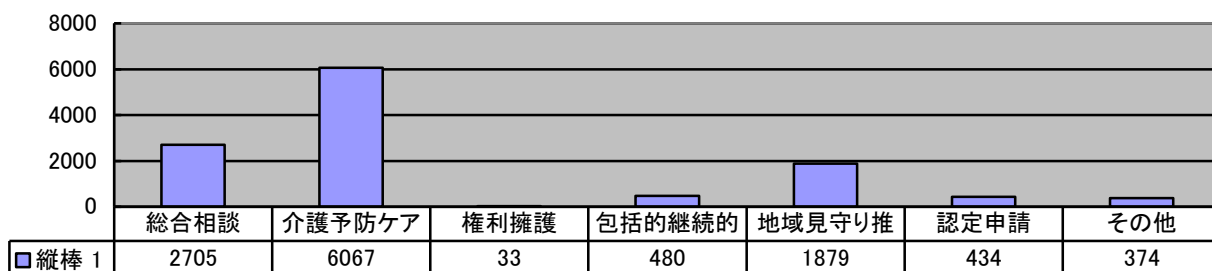
- ・地域でコミュニティサポート事業を開催し、住民同士の交流の場を作る。
- ・コミュニティ事業に協力をしていただける方を募りボランティアとして活用する。
- ・地域で行われている行事に参加をし、地域のコミュニティ作りのサポートをしていく。

⇒あんしんすこやかルームエリアにおいて、年度内にゆいちゃんクッキング倶楽部4回、うたごえ喫茶9回、クラシックいぶき3回、リハビリ体操12回のコミュニティ事業を25年度と同様に開催。

センター事業としては、昨年度より引き続き、ハピラス介護予防講座、チェアエクササイズ(健康体操)を各3回、NPO法人ニューいぶきと共催でのいぶきほんわか倶楽部(介護予防、仲間づくり交流事業)を11回開催した。

5. <<相談対応実績>>

相談対応実績



6. <<会議>>

会議名	
開催	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)
	あんすこ単独会議(事業所内)
参加	西神地区ケアマネジャー連絡会
	主任・リーダー会議(事業所内)
	行事委員会(事業所内)
	マナーアップ委員会(事業所内)
	感染症防止対策委員会
	見守り推進員連絡会
職種別連絡会(主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士)	
各民児協定例会(井吹東・井吹西・櫛谷)	

7. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→センター長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

25年度				26年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	0件	2件		3件	0件	3件

8. 《総括》

ニュータウンの開発、若年層の転入に伴い、圏域内の人口や高齢者人口も増加傾向にはあるが、後期高齢者の増加はここ数年ほぼ横ばいにはなっており、介護予防プランの作成数は減少となっている（請求合計 3535 件 前年比 38 件減）。しかし、26年度は委託ケースを減少し、直営ケースを増加することが出来ている状態である（直営担当数：2066 件 前年比 150 件増 委託数 1469 件 前年比 188 件減）。自センターで担当できる給付管理数の上限が年間 2400 件であるので、27年度も引き続き、件数の増加が図れるよう、コスト意識も持って対応していきたい。

また、26年度は地域ケア会議の開催に力を入れており、西区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、圏域内居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所を交えて開催する事ができた。圏域内の福祉マップも、平成 18 年度に作成以後、更新できていなかったが、地域ケア会議の中で検討し、現在作成中である。27年度はこれに加え、圏域内医療機関にも地域ケア会議に参加していけるよう、より一層の働きかけを行い、介護が必要になっても、介護をすることになっても安心して暮らせる街づくりを地域の方々と共に行っていきたい。